

Vol.
18

北海道のコンブ事情

2022/6/25 自然環境部 海域担当チーム 牧野 高志

北海道もようやく暑さがみえはじめ、薄着で出掛けられる人も見かけるような過ごしやすい気候になってきました。北海道の夏の風物詩とも言えるコンブの最盛期はまさにこれからです。

弊社では海を豊かな環境にするため、藻場造成に日々取り組んでいます。その取り組みの一環として函館でコンブの生育をライブ配信しており、今年もしっかりと繁茂したコンブを育成できています。

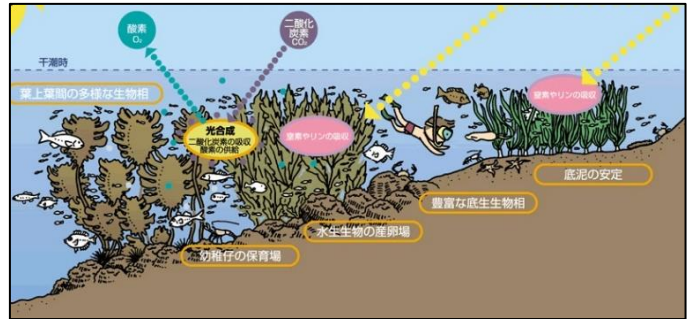


図2 藻場の役割

出典：水産庁HPより

(https://www.jfa.maff.go.jp/j/kikaku/tamenteki/kaisetu/moba/moba_genjou/img/higata.jpg)

昨年の北海道は、9月頃に日高から根室地方にかけて太平洋側で発生した赤潮の影響でサケ・ウニの大量斃死だけでなく、一部報道によるとコンブも色落ちするなど甚大な漁業被害が懸念されています。その後弊社は北海道より赤潮被害実態調査の委託業務を請け、現在も赤潮プランクトンのモニタリングを請負い、北海道の漁業に役立てるように尽力しています。

北海道新聞より5月25日報じられた内容では、コンブ資源量は例年に比べて浜中漁協の生育の良い漁場で約5割と資源量の減少が確認され、その要因に昨年の赤潮や3月の流氷により影響を受けた可能性が挙げられていました。

昨今の北海道のコンブ減少事情をみても藻場造成により一層取り組んでいきたいと思えます。



図1 函館ライブカメラ映像(2022年6月12日)

藻場は、富栄養化防止・懸濁防止・酸素供給などの水質浄化、生物保全・産卵場・保育場・餌料供給などの生物多様性など海を豊かな環境にする役割を担うだけでなく、CO₂を吸収するカーボンニュートラルの役割としても重要な存在です。ライブカメラ映像にも魚類が蟄集し、その役割が垣間見えます。